

文系 総合問題I

※1 この「出題の意図・評価ポイント」についての質問、照会には一切回答しません。

※2 配点率は入試問題に記載してあります。

【出題の意図・評価ポイント】

問題1は、「信頼」という社会科学的にも人文学的にも重要な概念について分析した課題文を読み、そのポイントを理解した上で、現実の問題に応用し、対策につなげるという思考力・判断力、そして考えた内容を明確に表す表現力を問うことを意図している。

問題2、3、4は数学の内容の出題で、標準的な問題の出題により基礎事項の理解度を測り、正しく論証や計算を行う力を測ることを意図した。

1.

問1・2 標準的な語彙や漢字の知識とともに、課題文の文脈の理解度を測った。

問3 文章中で説明された信頼のコミットメント説という枠組みを、専門家への信頼と不信という場面に応用する思考力を測った。専門外の人にとっても、専門家集団からの評価は専門家の能力を信頼する一定の理由を与える、という点を押さえているかどうかの評価のポイントとなる。

問4 著者が匿名で自著のカスタマーレビューを投稿するという事例を取り上げ、設問の記述からレビューのコミットメントの内容を再構成した上で、信頼のコミットメント説を応用するという、問3よりも一歩進んだ思考力を測った。一般読者が本の内容について判断する際に、著者という立場から生じるバイアスを差し引いてレビューを利用する機会を奪ったことが不誠実に当たる、という点を押さえているかどうかの評価のポイントとなる。

問5 一般の人々の間に広がる公的年金制度への不信という現象について、信頼のコミットメント説を用いた分析を求めた。一般の人々の考えが問題なので、公的年金制度についての詳しい知識ではなく一般常識（少子高齢化の進行など）に基づいて、政府がコミットすべきと人々が考えている内容と、政府の能力や意図それぞれに対する不信の理由を再構成し、コミットメント説を当てはめた上で、筋の通った対策を立てられたかどうかの評価のポイントとなる。問3・4よりさらに総合的な思考力を測った。

2.

道で結ばれた点から点への移動について、基本的な理解度と解法を工夫する力を測った。

3.

二次方程式と数列の基本と漸化式について、その理解度と証明する力を測った。

4.

球面上で新しく定義された図形について、読んで意味を理解し、対応する力を測った。

令和 8 年度「志」特別選抜 入試問題『出題の意図・評価ポイント』

文系 総合問題 II

- ※1 この『出題の意図・評価ポイント』についての質問、照会には一切回答しません。
- ※2 配点率は入試問題に記載してあります。

【出題の意図・評価ポイント】

問題は、大問 4 題で構成し、英語の知識や理解力、思考力、および表現力等を問うことを意図した。

大問 1 問題文は、価値工学(value engineering)に関して書かれた英文である。

問 1 価値工学について書かれた英文を理解し、その内容に合うように英文を完成させ、英文の理解力、および英語表現力を測る。

問 2 英文を理解し、その知識を使う力を測る。

問 3 英文の理解力、英語表現力、および思考力を測る。

大問 2 問題文は、平和(negative peace や positive peace 等)に関して書かれた英文である。

問 1 英文の理解力を測る。

問 2 英文の理解力、および思考力を測る。

問 3 英文の理解力、英語表現力、および思考力を測る。

大問 3 問題文は、規制再設定とその実証実験に関して話した教授と学生間の会話である。

問 1 英文の理解力を測る。

問 2 英文の理解力、および思考力を測る。

問 3 英文の理解力、英語表現力、および思考力を測る。

問 4 英文の理解力、英語表現力、および思考力を測る。

大問 4 問題文は、実践共同体(Communities of Practice)に関して書かれた英文である。

問 1 実践共同体について書かれた英文を理解し、その内容に合うように英文を完成させ、英文の理解力、および英語表現力を測る。

問 2 英文の理解力、および思考力を測る。

問 3 英文の理解力、英語表現力、および思考力を測る。